

古い街並みに異様な熱気 雰囲気高揚 光と囃子



「エンヤ、エンヤ」の掛け声と共に、若者たちが13
台の山車（やま）を引っ張り、笛や太鼓で囃子（はや
し）をかき鳴らした。人口約1万1000人の檜山管
内江差町は異様な熱気に包まれた。毎年8月9～11日

に行われる渡御祭。町内の旅館・ホテルは1年前から
予約で埋まり、6万人とも7万人ともいわれる江差出
身者が帰省し祭りに命を燃やす。その熱狂をレポート
する。

◆山車

1447（文安4）年の創立と言われる姥神（うば
がみ）大神宮。社殿が現在の位置に移された1644
（正保元）年に祭りが始まったと伝えられる。各町内